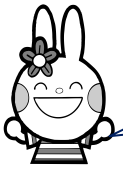
神明コミュニティだより

No. ２４



すっかり秋の空ですね。

Ｈ．２０．９．１７
鯖江市神明小学校

Community ： 深い結びつきをもった共同体。

○学校公開日　9月12日

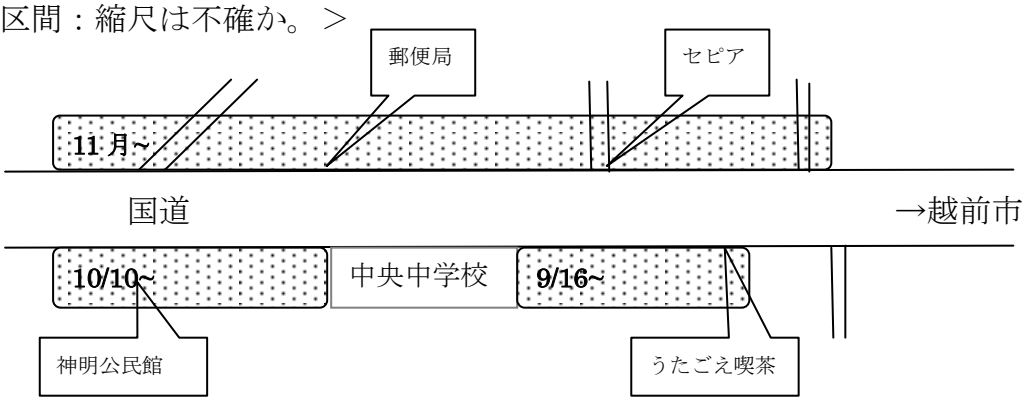
工事中で、ご不便をかけました。作業が足場組みのタイミングだったで、教室のすぐ外で声が聞こえたり、ドリルの音が響いたり、よいコンディションではなかったと思いますが、ありのままの様子をご覧いただけてよかったかもしれません。子どもたちは、よく我慢してくれてます。

参観、ありがとうございました。

○通学路一部変更

国道４１７号線の歩道拡幅工事区間が、一部、通学路に重なることがわかりました。中央中学校前の道路です。安全を考えて、９月１６日から工事終了まで（１２月ごろ）通学路を変更することにし、水落・北野・三六町の関係する町内の子どもたちを集めて指導しました。ご家庭でもご承知置きください。

＜工事区間：縮尺は不確か。＞



なお、神明交番や愛護センター、見守り隊の方にもご連絡し、協力を依頼しました。

見守り隊といえば・・・

いつもありがとうございます。子どもたちの作文の中に、すてきな作品があったのでご紹介します。原稿用紙３枚の力作です。

いつもありがとう

三年　田畑　星来

私の学校の周りには、たくさんのボランティアの人たちがいる。本を片づけてくれる図書ボランティア、学校の行事を手伝ってくれる人たち、そして、学校の行き帰りにいっしょに行ってくれる見守り隊の人たちだ。

その中でも、そうりのおばさんは特別だ。大きな声を出し、みんなを守ってくれる。私が１・２年生の時は、毎日家まで２キロメートルもある距離を自転車でひっぱって何班も見守ってくれた。しゃべりながら歩くと、

「前を向いて歩きなさい。」

列を離れそうになると、

「間を開けてはだめだよ。」

と、注意をしてくれた。

私たちの下校の道は、大きな道路を通るので、信号機も多いし、ぐねぐねの道も多いので不審者もよく出る。そして、細い道もあるので、車とぶつかりそうにもなる。そんな道をそうりのおばさんは見守ってくれた。毎日大きな声で注意ばかりされるので、

「いやだなあ。友達と遊びながら帰りたいなあ。」

と思うこともあったけれど、おばさんが仕事で来られない日があると、

「おばさん、来られないんだって。どきどきしてこわいね。班長、まっすぐ歩いて帰ってね。」

と思っていた。

ザーザー降りの雨の日も、カッパを着て時間までに来てくれた。長靴をはいても靴下が濡れそうなのに、学校の外で他の見守り隊の人たちと一緒に私たちを待っていてくれた。

「おばさん、ありがとう。」

と言うと、

「仕事が忙しかったから、まだ、昼ごはん食べてないんだよ。でも、みんなが心配だから来たんだよ。」

と言ってくれた。

今、私は３年生。そうりのおばさんは１・２年生までなので、もう一緒に下校はしない。だから、同じ地区の３年生と帰るのだけど、ちょっぴりこわい。

「おばさんがいてくれたなあ。」

と思うことがある。

ボランティアをするのは、すごく大変だ。優しい心と、やろうという気持ちがなかったらできないと思う。私は、

「今は、ボランティアはしてないけれど、小さな親切をたくさんして、人のためになることをしよう。」

と思っている。そして、

「大きくなったら、進んでボランティアのできる人になりたい。」

と思う。

最後になったけれど、そうりのおばさん、いつもありがとう。

体に気をつけてくださいね。